

特別支援教育における障害に応じたコミュニケーションに関する資質・能力を育むための指導内容について

障害種別等	指導内容および留意点等	必要な機器等
視覚障害	<p>点字を常用して学習する児童生徒の場合、キーボードでの入力や点字ディスプレイへの出力に慣れ、点字と普通の文字を相互変換したり、コンピュータの読み上げ機能を使って文書処理をしたりするなど、ICT機器を活用する技能の習得を図るなどの指導を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・点字ディスプレイ ・点字プリンタ ・自動点訳ソフト <p style="text-align: right;">等</p>
聴覚障害	<p>音声や手話、口話法、指文字、キュード・スピーチ等を使用して、周囲とのより円滑なコミュニケーションを図れるよう指導している。</p> <p>幼児児童生徒が、個々の状況に応じて主体的にコミュニケーション手段を選択し、活用できるようになるために、特定の手段を使えば人とのやりとりがより円滑になる体験を積む機会を設けたり、どうすれば円滑なコミュニケーションが行えるのかについて、幼児児童生徒自身が、体験を通して相手に伝わりやすい手段や伝え方を考えられるよう配慮、工夫しながら指導している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・FM補聴システム ・音声文字変換システム <p style="text-align: right;">等</p>
知的障害	<p>知的障害のある児童生徒は、対人関係における緊張や記憶の保持などの困難さを有し、適切に意思を伝えることが難しいことが見られるため、タブレット端末に入れた写真や手順表などの情報を手掛かりとすることや、音声出力や文字・写真など、代替手段を選択し活用したコミュニケーションができるよう指導している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・写真、絵、手順表 ・デジタルカメラ ・VOCA ・音声文字変換システム <p style="text-align: right;">等</p>
肢体不自由	<p>上肢操作の制限から、文字を書いたりキーボードで入力したりすることが困難となる場合が多いことから、画面を一定時間見るために頭部を保持しながら、文字盤の中から自分が伝えたい文字を見ることで入力のできる視線入力装置とコンピュータを組み合わせ活用するなど、他者に伝える成功体験を重ねることに重点を置きながら指導している。</p> <p>口腔の麻痺により、上手く発声できないことから言葉でのコミュニケーションが難しい場合は、まず、自分の意思を適切に表現し、相手に基本的な要求を伝えられるように身振りなどを身に付けたり、話し言葉を補うために絵カードやメモ、タブレット端末等の機器等を活用できるよう指導している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視線入力装置 ・ジョイスティックマウス ・プレススイッチ ・タブレット端末 ・コミュニケーションボード ・VOCA <p style="text-align: right;">等</p>

障害種別等	指導内容および留意点等	必要な機器等
病弱	<p>進行性の病気の児童生徒は、症状が進行して言葉による表出が困難になることがある。今後の進行状況を見極め、今までできていたことができなくなることによる自己肯定感や自尊感情の低下への心のケアに留意しながら、コミュニケーション手段を本人と一緒に考え、自己選択・自己決定の機会を確保しながらコミュニケーション手段を活用する力を獲得していくことを大切にしながら指導している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視線入力装置 ・ジョイスティックマウス ・プレススイッチ ・TV会議システム <p style="text-align: right;">等</p>
自閉症	<p>言葉でのコミュニケーションが困難な場合は、まず、自分の意思を適切に表現し、相手に基本的な要求を伝えられるように身振りなどを身に付けたり、話し言葉を補うために絵カードやメモ、タブレット端末等の機器等を活用できるよう指導している。</p> <p>また、他者の意図を理解したり、自分の考えを相手に正しく伝えたりすることが難しい場合は、話す人の方向を見たり、話を聞く態度を形成したりするなど、他の人との関わりやコミュニケーションの基礎に関する指導に重点を置いている。その上で、正確に他者とやりとりするために、絵や写真などの視覚的な手掛かりを活用しながら相手の話を聞くことや、メモ帳やタブレット型端末等を活用して自分の話したいことを相手に伝えることなど、本人の障害の状態等に合わせて様々なコミュニケーション手段を用いることができるように指導している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・コミュニケーションボード ・VOCA ・音声文字変換システム <p style="text-align: right;">等</p>
LD	<p>LDの児童生徒は、読み書きの困難により、文章の理解や表現に非常に時間がかかることがある。マルチメディアデイズ教科書等の読み上げ機能を利用している場合もある。</p> <p>また、言葉は知っているものの、その意味を十分に理解せずに活用したり、意味を十分に理解していないことから活用できず、思いや考えを正確に伝える語彙が少ないことがある。そこで、実体験、写真や絵と言葉の意味を結び付けながら理解することや、タブレット端末等のICT機器を活用し、見る力や聞く力を活用しながら言語の概念を理解できるようになることを目標に指導している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・デイズ教科書 ・音声タッチペン ・デジタルカメラ ・写真、絵